
あかるいみらい

神威風兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あかるいみらい

【Nコード】

N0951Z

【作者名】

神威風兎

【あらすじ】

泣く↓抱擁

…憧れなことですね

ゝ泣いたラプンツェル（前書き）

今日頑張るなWWW

く泣いたラプンツェル

「どうして…知っているの？」

「んー？君のお母さんから聴いたんだ。それに約束だからね」
なんでもないかのように答えるさわださん。…母さん、生きてたんだ…。

「とりあえず、ありがとうございます。それより、どういうこと！？約束って！？」

ボク自身、あらぶっているな…とか思いつつ、質問？した。

「君のお母さんはね、心ばー」

「している訳ないじゃないか」

「…え…？」

「心配なんかしているもんかつー！」

「！？」

さわださんの声を遮ってしまった。けど、こんなにほったらかしにされていて、どこが心配しているのだろうか。

「だったら、どうしてボクは外に出ちゃいけない！？どうして誰もこの家にいないの！？どうして誰も帰って来てくれないの！？…どうして…」

叫んでいるうちに、何かを見失い始めた気がした。何かが壊れていく。一体なにが…？

「…そつか…。そうだよね」

さわださんが立ち上がった。そして、ボクの目の前まで来た。

「けどね、君のお母さんは本当に心配していたんだよ。ほとんど毎日連絡をくれたり、『今日』のことを頼んできたり」

優しく微笑んでさわださんは話しかけてくれるけど、ボクには何も聞こえなかった。ただ、さわださんを見ながら涙が流れていくのは解った。

「判るよ。寂しかったよね。1人で…まるで、ラプンツェルみた

いに…ね」

「うぐ…。…ヒツ…ク…」

溢れそうな感情が止まらなくなってきた。とどめなく溢れてくる。

「我慢…しなくていいよ」

「…うわあああああつ」

さわださんに抱きついた。そのまま、さわださんは抱きしめてくれた。優しく。

本当は分かった。父さんも母さんも兄さんも姉さんもボクを陰で支えていたくれたことを。居なくても感じることは出来ていた。ただのボクのワガママ。

川がさらさらと流れている。なんか、穏やかな。

わりと泣いていたボクは一先ず落ち着いた。で、紅茶を淹れた。お客様にお茶を淹れないなんて、米国紳士の恥だ。…嘘ついた。ボク、英国だ…。

まだ、さわださんに聞きたい事がある。「約束」のことだ。

「約束？…ああ。ボンゴレファミリーに入ってくれないかな？」

「は？」

…アサリのパスタを作ろうかい、的な？

く泣いたラプンツェル（後書き）

あと何話書こつかな

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0951z/>

あかるいみらい

2011年12月3日17時59分発行